

薬学生の広場

Plaza of Pharmacy student

薬学生向け
企画案内・報告

高校生薬剤師体験を行いました

宮崎生協病院では毎年夏に宮崎県内の高校3年生を対象に医師・看護師体験を行ってきました。今年からは県内で医療者を目指す高校3年生の進路活動を応援しようと薬剤師・放射線技師・理学療法士を目指す学生向けに体験企画を行いました。

薬剤師体験には県内から26名の参加申し込みを受け、7月25日(土)に開催した第1回薬剤師体験は8名の学生が参加しました。企画では現場の薬剤師より薬剤師の1日の仕事内容が紹介され、病院薬剤師のやりがいや魅力について語られました。その他薬学部でのキャンパスライフはどのように過ごしていたのかなど普段はなかなか聞くことが出来ない話を聞くことが出来たのではないのでしょうか。体験では実際の処方せん通りに薬を処方する体験を行いました。普段見ることが出来ない分包機(お薬を自動で分ける機械)や薬剤師の働く姿を目の当たりにした学生の目はキラキラ輝いていました。



参加者の感想

薬剤師は多くのカンファレンス(患者さんの治療方針を決めていく会議)に参加し、時には医師の処方に提言したりと、想像している何倍も大変だし責任重大なんだろうなと感じた。そこにやりがいがあるのかもしれないと感じた。

参加者の感想

病院薬剤師はドラマのように救急の現場で活躍することもあれば、宮崎生協病院のように一人一人じっくり関わることでできることを知り病院によって薬剤師の働き方も変わってくことを知れた。また、専門知識を生かせるというメリットがあるのは薬剤師の強みでありやりがいに繋がってくるものだと思います。



薬学奨学生募集

〈奨学金制度の概要〉

支給額 月額10万円

支給期間 奨学生の決定から卒業まで

〈返済免除の規定〉

奨学金の受給期間(1年未満は1年に繰り上げ)と同一期間、宮崎医療生協の院所に勤務した者は、奨学金の返済義務を免除する。

〈奨学生制度の目的〉

卒業後、宮崎医療生協に参加する意志を持った薬学生の皆さんに、勉学の経済的な援助を行うため。

お問い合わせ先 お気軽にお問合せください。
宮崎生協病院 薬剤科 大田原 TEL 0985-24-6877

「モモ」



(ミヒヤエル・エンデ著)

私の好きな本

宮崎生協病院
内科医師 永友 英之

私の好きなテレビ番組の一つに、「100分de名著」というNHK Eテレ(私の小さい頃は教育テレビ)と言っていたが、いつの間にか名称が変わった)の番組がある。司会の伊集院光(タレント、落語家)と安部みちこ(アナウンサー)が毎週25分ずつ4回、一ヶ月かけて一冊の本を専門家とともに読み解いていく、という番組である。毎回、伊集院は自分の持った疑問を率直にぶつけて小気味よい感じで、読んでいない本は読みたくなってくるし、読んだ本も、この番組を通して新たな発見が必ずある。テキストの朗読もとてもいい。2020年8月が『モモ』についての回であった。正直に言うと、「子ども向けの本」と今まで思っていて、この時に初めて読んだのだが、これは大人こそ読んだ方がいい本であることが分かった。

街外れの円形劇場あとにモモという少女が迷い込み、住み着くようになる。モモは不思議な能力があり、街の人はモモに話を聞いてもらうと幸福な気持ちになる。皆が幸せに暮らしていたのだが、そこへ「灰色の男たち」がやってくる。彼らは、人々がいかに無駄な時間を過ごしているかを知らせ、時間を節約させる。ところが、人々が効率重視の仕事や生活をするなど浮かせた時間は何と、「灰色の男たち」によって奪い取られるのであった。そう、彼らは「時間どろぼう」だったのだ。人々は「時間を節約するほど、生活はやせ細っていく」状態となっていた。モモは自分たちの時間を彼らから取り返すことができるのか、というのが粗筋である。小説として面白いのはもちろんだが、それだけではなく、細部にわたって行き届いている。モモの友達か、モモのために創作した物語を話す場面が一章あって、大筋とは無関係な話なのだが、だからこそ結末が分からずにドキドキさせられるし、モモが「時間の国」というところで過ごした経験について書かれた箇所は神々しささえ感じる。読んで損はしないと思うのでぜひ一読を(と損得でものを言っている時点で「灰色の男たち」に支配されている気がする)。

そして「100分de名著」の中では、臨床心理学者でユング派分析家の河合俊雄氏(職業と名前からは故河合隼雄氏と何らかの関係があるかもしれない、と私は思っている)が、『モモ』に込められた様々なメッセージを心理学的、文学的に読み解いていく。かなり知的好奇心をくすぐられる内容である。番組は終わったが、テキストは販売しているので、こちらも『モモ』と一緒に読むのがいいと思う。

ところで、私はいつも「100分de名著」を録画して見ている。『モモ』の回では、「原作も読んだし、時間をもったいない」と考えて、早速送り見ていた。ところが、ふと考えてみるとこれこそが灰色の男たちに時間を奪われているということではないか!!ということに気付く、あわてて通常速度に戻し、少し奪われた時間を取り返した。めでたし、めでたし。

ということで、今回は「時間を節約して生活がやせ細った」ために最後のオチまでもやせ細ってしまったというお話。

放射線科のこぼれ話

宮崎生協病院 放射線科 山口 莉穂

9月末に私の相棒であるマンモグラフィ装置が新しくなったので、この場を借りて簡単に『新・相棒』を紹介させていただきます。『新・相棒』はレントゲンやCT同様、ほぼリアルタイムに撮影した画像が得られるようになったため検査時間が大幅に短縮されました。ただ「装置が新しくなった＝圧迫をあまりしなくてもいい(痛みが少ない)」というわけではないので、残念ですが受診者の痛みに対する苦痛は変わりません。しかし!『新・相棒』には「なごむね」という機能が搭載されており、これを使用すると撮影直前に減圧する(痛みを和らげる)ことができます。ただこの機能を使用するには120N以上圧迫する必要がありますが、撮影中は若干痛みから解放されます(感じ方は個人差があります)。

私が入職して約1年半経ちましたが、この間、一度も乳がん検診を受けたことがない又は何十年前に1度受けただけという方が乳がんと診断されるのを何人も見てきました。乳がんは11人に1人になると言われています。早期発見であれば乳房の大きさをあまり変えることなく手術ができる上、5年・10年後の生存率が高いのも特徴です。マンモグラフィ検査は痛みだけでなく被ばくや羞恥心等の問題もありますが、できるだけ受診者の方にリラックスして検査を受けて頂くべく、検査中はコミュニケーションをとりながら行うように心がけていますので、是非、超音波(エコー)検査と一緒に定期的に受けに来て下さい。検査中は苦痛かもしれませんが、皆様のこれからの未来(人生)笑顔にするために必要な検査です。『新・相棒』と一緒にお待ちしております。

